

# 血液データによる術後早期でのD V T発症予測に関する研究

著者	大谷 初美
著者別表示	Otani Hatsumi
雑誌名	平成26(2014)年度 科学研究費補助金 奨励研究 研究概要
巻	2014-04-01 2015-03-31
ページ	1p.
発行年	2020-03-05
URL	<a href="http://doi.org/10.24517/00060672">http://doi.org/10.24517/00060672</a>



血液データによる術後早期でのD V T 発症予測に関する研究

Research Project

Project/Area Number

26931046

Research Category

Grant-in-Aid for Encouragement of Scientists

Allocation Type

Single-year Grants

Research Field

臨床医学

Research Institution

Kanazawa University

Principal Investigator

大谷 初美 金沢大学, 附属病院, 臨床検査技師

Project Period (FY)

2014-04-01 – 2015-03-31

Project Status

Completed (Fiscal Year 2014)

Budget Amount \*help

¥500,000 (Direct Cost: ¥500,000)  
Fiscal Year 2014: ¥500,000 (Direct Cost: ¥500,000)

Keywords

人工膝関節置換術 / DVT

Outline of Annual Research Achievements

【研究目的】  
人工膝関節全置換術は、下肢深部静脈血栓症(DVT)の発症において高リスクとされている。DVTの選別診断にはDダイマー定量検査があるが、術後早期ではDVTの有無に関わらず異常値となる。そこで、術後早期でのDVT発症を予測するために、術後DVT発症と各種血液データとの関連を検討した。  
【研究方法】  
当院で2011年4月～2015年3月に人工膝関節置換術を施行した142例を対象とした。術前術後のDVT判定に下肢静脈エコー検査を用いた。対象から、下肢静脈エコー検査の未施行例および観察不良例、術前DVT陽性例、術前抗凝固剤投与例、術後の予防的抗凝固療法中断例を除外し、38例(平均年齢73.1±8.4歳)とした。術後DVT発症群15例と非発症群23例に分類し、術前、術後1、3、7日目の血液データ(血算、凝固、生化学検査項目)とその経時的変化率(%)について、Wilcoxonの順位検定にて2群間比較を行った。2群間比較で有意差を認めた項目について、ロジスティック回帰分析とROC解析にて術後DVT発症との関連を検討した。  
【研究成果】  
本研究では、ロジスティック回帰分析にて、術後1日目または3日目の血小板数(Plt)、術前-術後1日目のeGFR変化率およびALT変化率に有意差を認めた。ROC曲線下面積は術後1日目のPltで0.751、3日目のPltで0.732、術前-術後1日目のeGFR変化率およびALT変化率による回帰モデルで0.875であった。今回、2群間比較で術後に有意差があった可溶性フィブリンモノマー複合体、トロンビン-アンチトロンビン複合体はn=14とn数が不十分であり、さらに症例を集め検討する必要があると考えられた。  
【まとめ】  
術後1、3日目の血小板数、術前-術後1日目のeGFR変化率とALT変化率は、術後DVT発症と関連があることが示唆された。

Report

(1 results)

2014

Annual Research Report

Research Products

(2 results)

	All	2014
	All	Presentation
[Presentation] 人工股関節全置換術におけるトラネキサム酸とカルバゾクロムスルホン酸ナトリウム投与のリスクとベネフィット		2014 ▼
[Presentation] 人工股関節全置換術での止血剤投与および抗凝固剤の種類による血液データへの影響		2014 ▼

URL:

https://kaken.nii.ac.jp/grant/KAKENHI-PROJECT-26931046/